

# アメリカの家庭科教育におけるキャリア教育に関する研究

—— 教科書分析を中心にして ——

磯崎 尚子、家城 潤子\*

A Study on Careers Education and Guidance in Home Economics Education in the USA: through Analyzing some Textbooks of Home Economics Education

Takako ISOZAKI, Junko IEKI

E-mail : isozaki@edu.u-toyama.ac.jp

### Abstract

In this paper, the aim is to investigate the philosophy and contents of career education and guidance in home economics education in the USA. First of all, the author has clarified the definition of careers education and guidance in the USA through analyzing Super's researches. Secondary the author has analyzed the National Standards for Family and Consumer Sciences and two secondary school textbooks of home economics in the USA with the point of views on careers education and guidance which the authors has made definition in this paper.

キーワード：キャリア教育、家庭科教育、アメリカ、教科書

Keywords : career education, home economics education, USA, textbooks

### はじめに

近年、少子高齢化社会、産業・経済の構造的変化が、将来の不透明さを増し、子どもたちの進路をめぐる環境を大きく変化させている。そのため、子どもが社会人、職業人、家庭人として自立していくことができる教育が求められている。

これまで、わが国では、自らの生き方を探求したり、主体的に進路を選択したり、将来の社会人、職業人、家庭人として基礎的・基本的な資質、能力を身につけるための教育が必ずしも十分に行われてこなかった。

これに対して、アメリカでは、キャリア教育が、1970年代初頭から推進され、学校教育において行われている。また、家庭科においてもキャリア教育が積極的に行われている。

本研究は、アメリカの家庭科ナショナルスタンダード (National Standards for Family and Consumer Sciences) と家庭科教科書におけるキャリア教育の分析を通して、アメリカの家庭科におけるキャリア教育の教育的理念や学習内容などを明らかにすることを目的とする。

### I キャリア教育の定義

アメリカでは、わが国よりも早くからキャリア教育に関する研究や実践が行われている。本小論では、教科書分析に際して、まずアメリカにおけるキャリ

ア教育の定義について検討してみよう。

スーパー (Super, D. E.) は、キャリアを狭義の職業ガイダンスではなく、人間の生涯発達という広い範疇で捉えた。スーパーのライフ・キャリアを示したものが図1である<sup>1)</sup>。

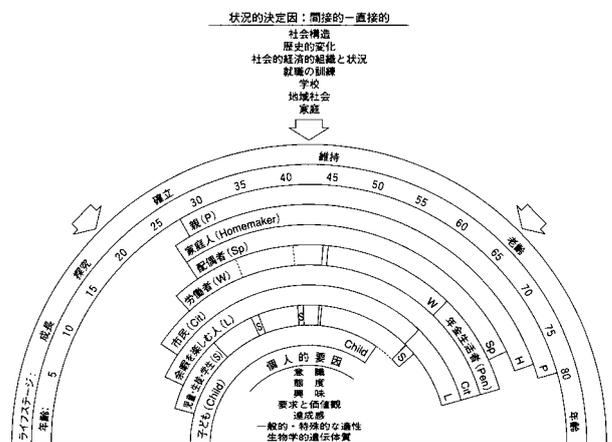


図1 ライフキャリアレインボー

スーパーは、人間のライフステージとして、成長、探求、確立、維持、老齢の5つの段階があるとし、人間はそのライフステージにおいて、子ども・児童・生徒・学生、余暇を楽しむ人、市民、労働者、配偶者、家庭人 (homemaker)、親、年金生活者の9つの役割に関わっていくとした。

このように考えるスーパーは、キャリアを狭義の専門的な職業として捉えるだけでなく、人の生涯には、家族としての役割、余暇における自己実現など、

多様な役割があるとし、その役割を家庭生活、社会生活、職業生活といった人間生活全体の中で総合的に捉えた。そして、人間の役割は、加齢とともに多様化するとし、それをキャリア発達と定義した。つまり、人の一生といった生涯発達の中で、家庭生活、職業生活、市民生活など、自立した一人の人間としての全生活における役割、生き方なのである。

本研究では、このスーパーの考え方を参考にしてキャリア教育を、「生涯学習において、職業生活および家庭・地域生活の中で必要とされる知識やスキルを身に付けさせるとともに、自己実現のキャリアを形成していくのに必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と定義して論考する。

## II アメリカの家庭科ナショナルスタンダード

### 1. アメリカの家庭科ナショナルスタンダードの概要

わが国よりも早い段階でキャリア教育に関する研究や実践が行われているアメリカでは、近年、各教科でナショナルレベルでのスタンダードの開発が行われている。家庭科においても1998年に家庭科ナショナルスタンダードが発行されている<sup>2)</sup>。このナショナルスタンダードは、州がカリキュラムガイド

を作成したり、教師が柔軟に活用したりするための枠組みを提供している。つまり、ナショナルスタンダードは、法的拘束力はないが、教授・学習活動にとってひとつの重要な基準である。

### 2. 家庭科ナショナルスタンダードにみるキャリア教育

家庭科ナショナルスタンダードは、16の学習領域を通して、職業生活とキャリアへの準備を援助することを目指している。ここでは16の学習領域ごとに、全体目標、内容目標、学習の到達度、能力、それを具体化するプロセスの問いから構成されている。家庭科ナショナルスタンダードの最終的な目的は、生涯をとおして、家族、コミュニティ、職業生活にかかわる、個人や家族としての能力を高めるために寄与することである。

その学習領域や全体目標、内容目標をまとめたのが表1である<sup>3)</sup>。内容目標はキャリアに関するものだけを取り上げた。その学習領域は、衣食住の領域に加え、家族、消費、設備管理、接待、人間関係などわが国よりも広範囲の領域が取り扱われている。

第1の学習領域「家族とキャリア、コミュニティ

表1 米国ナショナルスタンダード<学習領域、全体目標、内容目標>

学習領域	全体目標	内容目標
1. 家族とキャリア、コミュニティの関連	1.0 家族、コミュニティ、キャリアにおける生活の多様な役割と責任を総合的にとらえる	1.1 多様な個人、家族、キャリア、コミュニティの多様な役割と責任を管理する方法を分析する 1.2 コミュニティと職場において、転移可能な職業スキル 1.3 コミュニティの活動に個人と家族が与える影響を分析する
2. 消費者と家族の資源	2.0 人間、経済、環境資源に関する実践的管理について考える	
3. 消費者サービス	3.0 消費者サービスに関するキャリアに必要な知識、技術、実践力を総合的に習得する	3.1 消費者サービス産業に関する進路、職業を分析する
4. 乳幼児、教育、サービス	4.0 乳幼児、教育、サービスに関するキャリアに必要な知識、技術、実践力を総合的に習得する	4.1 乳幼児、教育、サービスに関する進路、職業を分析する
5. 設備の管理とメンテナンス	5.0 設備の管理とメンテナンスに関するキャリアに必要な知識、技術、実践力を総合的に習得する	5.1 設備の管理とメンテナンス領域での進路、職業を分析する
6. 家族	6.0 家族の意義と、個人と社会の幸福に及ぼす家族の影響について考える	
7. 家族とコミュニティサービス	7.0 家族とコミュニティサービスに関するキャリアに必要な知識、技術、実践力を総合的に習得する	7.1 家族とコミュニティサービスに関する進路、職業を分析する
8. 食品の製造とサービス	8.0 食品の製造とサービスに関するキャリアに必要な知識、技術、実践力を総合的に習得する	8.1 食品の製造と食品サービス産業に関する進路と職業を分析する
9. 食品科学、食事療法、栄養	9.0 食品科学、食事療法、栄養に関するキャリアに必要な知識、技術、実践力を総合的に習得する	9.1 食品科学、食事療法、栄養産業に関する進路と職業を分析する
10. 接待、観光旅行、レクリエーション	10.0 接待、観光旅行、レクリエーションに関するキャリアに必要な知識、技術、実践力を総合的に習得する	10.1 接待、観光旅行、レクリエーション産業に関する進路と職業を分析する
11. 住居、インテリア、家具	11.0 住居、インテリア、家具に関するキャリアに必要な知識、技術、実践力を総合的に習得する	11.1 住居、インテリア、家具産業に関する進路と職業を分析する
12. 人間の発達	12.0 人間の成長と発達に強い影響を及ぼす要因を分析する	
13. 人間関係	13.0 家族、職場、コミュニティにおいて、尊敬し気遣う関係を実践する	
14. 栄養とウェルネス	14.0 個人と家族の幸福を高めるための栄養とウェルネスに関して実践する	
15. 親になること	15.0 個人と家族の幸福に影響を及ぼす親としての責任と役割について考える	
16. 織物と服装	16.0 織物と服装に関するキャリアに必要な知識、技術、実践力を総合的に習得する	16.1 織物とアパレルデザイン産業に関する進路と職業を分析する

の関連」では、家庭生活およびコミュニティとの関わりの中でキャリアについて学習することになる。そして、その内容目標には、家族、コミュニティ、キャリアにおける生活の多様な役割と責任を総合的に捉えること、また、それを管理する方法などを学習することが挙げられている。

第2から第16までの学習領域では、そのうちの9つの学習領域で、各学習領域に関連するキャリアに必要な知識、スキル、実践力を総合的に習得することが内容目標として示されている。9つの学習領域とは、衣食住、家族、消費者、乳幼児に加え、教育、設備管理、接待、観光旅行である。教育から観光旅行までの学習領域は、わが国の家庭科教育では取り扱われていない領域である。

このように各領域で進路や職業などキャリアについて取り扱うことで、伝統的あるいは従来の家庭科の領域にとらわれず、幅広くより深度のあるキャリア教育を実行することができると推察される。

### III 家庭科教科書にみるキャリア教育の特色

本小論では、家庭科ナショナルスタンダード公表後に出版または改訂された中等家庭科教科書“CREATIVE LIVING”と“SKILLS FOR LIFE”を取り上げ、検討する。

#### 1. “CREATIVE LIVING” の場合

“CREATIVE LIVING”は、Unit. 1「個性を伸ばす」からUnit. 8「住居、生活空間」まで、8つのUnitがあり全75章から構成されている。キャリア教育に関する内容は、全705ページ（目次、付録、語集、索引は除く）中62ページ（約8.9%）で扱われている。キャリア教育の視点からみた教科書の構成を示したものが図2である<sup>4)</sup>。各Unitの最終章に必ずキャリアに関する内容が取り上げられている。

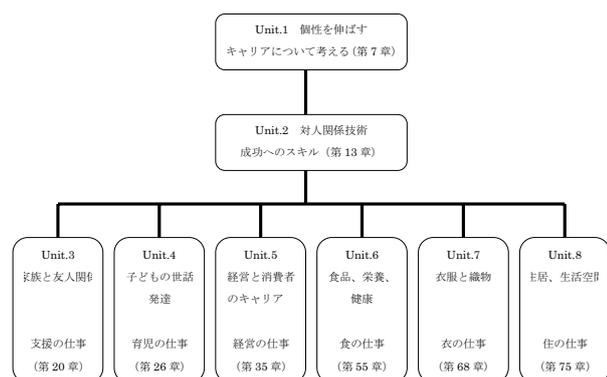


図2 “CREATIVE LIVING” 章の構成

Unit. 1の第7章「キャリアについて考える」では、キャリアとはいったものか、どのように決断するのがよいのか、というキャリアの概念やキャリアプランニングについて学習することになる。これは、自分に合ったキャリアを決断するためには、自分自身を知る必要がある、個性を伸ばすという考え方が前提となっている。次のUnit. 2の13章「成功へのスキル」では、対人関係スキルなど、キャリアの成功のために必要なスキルについて扱われている。Unit. 3からUnit. 8までは、全体論を扱うUnit. 1と2のもとで家政学の各論を扱う構成となっている。

以下では、各章についてさらに細かく分析する。Unit. 1の第7章「キャリアについて考える」<sup>5)</sup>では、まず、人間は何のために仕事をするのかを学習する。仕事をするとは、収入を得ることだけではなく、人間の欲求を満たすことであると考えられている。表2は、その欲求をまとめたものである<sup>6)</sup>。表2に示したように、仕事をするとは、他人に認められたいという欲求、個人的達成感を得たいという欲求、新しいスキルや知識を学び、成長したいという欲求、友好関係や社会との帰属意識などの社会関係に対する欲求、そして社会における仕事を遂行したいという欲求、の5つの欲求を満たすことができる。

表2 仕事をすることで満たされる欲求 (needs)

<仕事をすることで満たされる欲求>

- ①他人に認められること  
同僚から賞賛を得る。自尊心を育む。
- ②個人的達成感が得られること  
自活できる。誇りと自尊心を育む。
- ③個人的成長  
新しいスキルを学び、知識を得られる。
- ④社会関係  
同僚と人間関係を形成し、社会に帰属している意識を得られる。
- ⑤遂行  
自分の仕事は重要で、社会に貢献していると感じられる。

次に、自分の興味や才能、個性や価値観を見つめることが、キャリア選択につながると示されている。自分の興味や持っているスキルにあったキャリアを選択することは、将来の仕事を上手くこなすのに必要なことであるとし、そのためにも、自分の興味や才能、個性、価値観をより深く理解することが大切であると説かれている。そのため、自分をより深く

理解するために以下の4項目が挙げられている<sup>7)</sup>。

- ① 自分の興味を知る。
- ② 自分の持っているスキルを知る。
- ③ 自分の個性を知る。
- ④ 自分の価値観を知る。

つまり、自分自身を知ることが、キャリアプランニングの第1歩であるという考え方である。

Unit. 2の第13章「成功へのスキル」<sup>8)</sup>では、技術革新による仕事場の変化、キャリアで成功するためのスキルを学習する。

技術革新による仕事場の変化とは、科学技術の進歩と経済成長と共に、コンピュータなどの科学技術機器が導入されたことである。新しい科学技術の導入は、人々に技術革新に対応した能力を要求している。自分のスキルを向上させることの重要性を指摘している。

また、キャリアで成功するためのスキルの必要性についても学習する。ここでは、生徒と年齢が近く、職業につくために必要とされるスキルを持たないマーティンを例として挙げ、身近に現実的にキャリアについて考えることができるように構成されている。

・・・マーティンは、学校を約1年で退学し、仕事を探しています。彼は仕事をしたくないのではありません。しかし、彼は多くの面接を受けたにもかかわらず、彼は仕事を得られません。それは、彼に雇用者が求めるスキルが欠けているからです。しかし、彼はそのことを全く理解していませんでした<sup>9)</sup>。

この例は、雇用者には労働者に求めるスキルがあり、そのスキルを持たないものは仕事を得ることが困難であるということを示している。キャリアの成功のために必要なスキルを図式化したものが図3である<sup>10)</sup>。

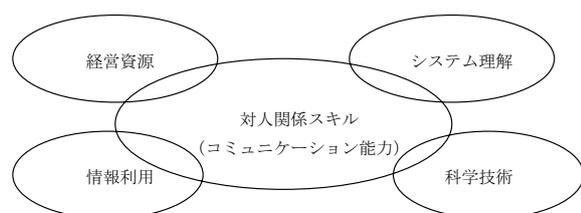


図3 キャリア成功のために必要なスキル

キャリアの成功に必要なスキルとは、対人関係スキル、経営資源スキル、情報利用スキル、システム理解スキル、科学技術である。どんなキャリアにお

いても、人と上手く関わるができる能力が重要であるという視点から、これら5つの能力の中心にあるのが対人関係コミュニケーション能力である。対人関係スキルとは、組織で働き、互いに教え、導き、話し合うスキルである。経営資源とは、時間、お金、物質、空間、スタッフを管理することである。情報利用とは、データを集め、まとめ、評価することである。システム理解とは、社会的、組織的、科学技術的システムを理解することである。科学技術とは、科学技術設備や手段、方法を学ぶことである。つまり、キャリアの成功には、人的資源を核にして、システム理解、情報利用、科学技術などの、技術革新、科学技術と関連の深い3つを関連させることが必要であると考えられている。

Unit. 3からUnit. 8では、家政分野の衣食住などの領域別に職業を紹介し、その職業に必要なとされる特質、興味、スキルが紹介されている。それらについてまとめたのが、表3である<sup>11)</sup>。

その職業とは、援助に関する職業、子どもに関する職業、経営と消費者に関する職業、食事と栄養に関する職業、衣服と織物に関する職業、住宅に関する職業である。さらに、その領域における職業が、表4のように、「入門レベルの仕事」、「訓練が必要な仕事」、「より高い教育を必要とする仕事」というレベル別の3つに分類して示されている<sup>12)</sup>。

入門レベルの仕事とは、ハイスクール卒業程度の能力を要する仕事である。パートタイム、低賃金のものが多い。訓練が必要な仕事とは、その職業に関する何らかの訓練を必要とするものである。訓練の中には学校で習得できるものもある。より高い教育を必要とする仕事とは、大学卒業以上の学位を要するものである。特定の免許を取得しなくてはならないものも多い。たとえば、食品に関する職業でこの3つに分類すると、入門レベルの仕事にはウェ이터やウェイトレス、訓練が必要な仕事にはシェフ、より高い教育を必要とする仕事には栄養士などが挙げられている。

“CREATIVE LIVING”で扱われている職業に共通して必要な能力は、対人関係スキルである。仕事だけではなく、生きていくうえで対人関係スキルは欠かすことができないものである。これは、その能力やスキルを発達させることは、より良く生きることにつながる、と考えられているからである。

表3 職業の分類と、必要とされる特質、スキル、興味・関心など

職業の分類	必要とされる特質、スキル、興味・関心など	職業の事例
支援に関するもの (Unit. 3 第20章)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人に対する興味、理解があること。</li> <li>・良い聞き手であること、共感すること</li> <li>・信頼できる人間であること、意思が明確であること。</li> <li>・客観的であること、人の決断を認めることができること。</li> <li>・争いを解決できること、上手い交渉人であること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉サービス労働者</li> <li>・ホームヘルパー補佐</li> <li>・カウンセラー</li> <li>・牧師、司祭（聖職者）</li> <li>・心理学者</li> <li>・精神科医</li> </ul> 等
子どもに関するもの (Unit. 4 第26章)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと楽しめること、子どもについて学ぶこと。</li> <li>・子どもを人として尊敬できること。</li> <li>・思いやりがあること、我慢強く、寛大で穏やかであること。</li> <li>・独創的であること、ユーモアのセンスがあること。</li> <li>・やる気があり、子どもの遊びに進んで参加できること。</li> <li>・融通が利くこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベビーシッター</li> <li>・幼稚園で働く人</li> <li>・キャンプ指導員</li> <li>・カフェテリア従業員</li> <li>・教員</li> <li>・絵本作家</li> <li>・司書</li> <li>・小児科医</li> <li>・小児科の看護婦</li> </ul> 等
経営と消費者に関するもの (Unit. 5 第35章)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他人を導くことが好きであること。</li> <li>・他人と働くことが好きであること。</li> <li>・コミュニケーションスキル、数学的スキルを有していること。</li> <li>・目標を設定し計画できるスキル。</li> <li>・時間を管理するスキル。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業家</li> <li>・銀行の窓口係</li> <li>・報道記者</li> <li>・弁護士</li> </ul> 等
食事と栄養に関するもの (Unit. 6 第55章)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外で働くことが好きであること。</li> <li>・細かい所に注意を払えること。</li> <li>・機械を使って働くのが好きであること。</li> <li>・優れた数学的スキル。</li> <li>・プレッシャーにあっても冷静であること。</li> <li>・創造的であること。</li> <li>・他人と上手くできること、友好的であること。</li> <li>・食品や食事の支度について学習を続けること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーの経営者</li> <li>・食品科学者</li> <li>・ウェ이터、ウェイトレス</li> <li>・シェフ</li> <li>・栄養士</li> </ul> 等
衣服と織物に関するもの (Unit. 7 第68章)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服に対する強い興味。</li> <li>・一生懸命働きたいという意欲。</li> <li>・スタイルや色、繊維の未来の流行を予測する能力。</li> <li>・色やデザインのセンスがあり上手く作れること。</li> <li>・細かい所に注意を払うことができること。</li> <li>・繊維や織物の専門的な局面の学習に対する意欲があること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デパートの衣服販売員</li> <li>・ウインドウドレッサー</li> <li>・ファッションコーディネーター</li> <li>・デザイナー</li> <li>・織物技術士</li> <li>・染色士</li> </ul> 等
住宅に関するもの (Unit. 8 第75章)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋の模様替えが好きであること。</li> <li>・建物の建築方法などに興味があること。</li> <li>・グラフィックアートやコンピュータグラフィックに興味があること。</li> <li>・計画書を見て、出来上がる作品の絵を描けること。</li> <li>・手先が器用であること、細かい所に注意を払うことができること</li> <li>・人々とコミュニケーションして上手く働けること。</li> <li>・健康であること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造園庭師</li> <li>・建設作業員</li> <li>・家具コーディネーター</li> <li>・インテリアデザイナー</li> <li>・不動産業者</li> <li>・建築士</li> <li>・ビルの管理人</li> <li>・家庭電気器具修繕人</li> </ul> 等

表4 レベル別職業の分類

入門レベルの仕事	訓練が必要な仕事	より高い教育を必要とする仕事
ハイスクール卒業程度の能力 パートタイムが多い 低賃金のものが多い	その職業における訓練を要する (学校で習得できるものもある) 大学の学位を要するものもある	大学以上の学位を要する さらに訓練を要するものもある 免許を要するものもある

## 2. “SKILLS FOR LIFE” の場合

“SKILLS FOR LIFE”は、Unit. 1 からUnit. 9 までの全9 Unitで構成されており、キャリアについては最後のUnit. 9 キャリアを中心に扱われている。Unit. 9は、教科書全554ページ(目次、語彙用語解、付録、索引は除く)中57ページ(約10.3%)も占めている。Unit. 9 キャリアの全体構成は図4に示したとおりである<sup>13)</sup>。

その内容は、まず、働くことの意義、家族と仕事の関わりといったキャリアについての幅広く基本的な内容を学習する。次に、仕事場で成功するためのスキルについて学ぶ。そして最後に、自分に適した職業を探す方法、面接の準備と実践について学習する。また、最後に付録として、A. 家政に関する職業、

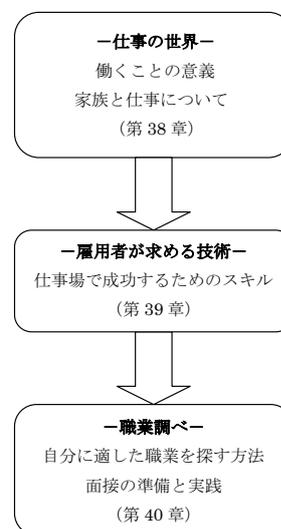


図4 “SKILLS FOR LIFE” Unit. 9におけるキャリアの全体構成

B. スキルの発達、が設けられている。

以下では、各章について詳細に分析する。

Unit. 9 第38章「仕事の世界」<sup>14)</sup>では、働くことの意義と、家族と仕事のかかわりについて学習する。人々が働く理由として、以下のことが挙げられている<sup>15)</sup>。

- ・生活に必要なお金を稼ぐため。
- ・働くことが好きだから。
- ・人間的な満足感を得るため。
- ・帰属意識を得るため。
- ・生活をより良くするため。
- ・自己の独創性を発揮するため。
- ・人と一緒にいるのが好きだから。

この章では、キャリアとは、職業人、家庭人、学生、ボランティアなど人間が生涯をとおして関わるあらゆる仕事である、と定義されている。それ故、キャリアの選択は、人生において重要であり、キャリアプランニングの重要性が指摘されている。キャリアプランニングとは、最初に、最終的な目標を設定し、その目標を達成するためにはどのような人生設計が必要かということ計画することである。そこには、人が生涯にわたって関わるであろう家族と仕事との関わりについて示されている。家族と仕事は密接に関係していることから、あらゆる角度からキャリアプランニングを立てるように指摘されている。そして、仕事が家族生活を支援するサービスとして、付加給与、家族友好的手当、扶養家族ケアサービス、フレックスタイム、フレックスプレイス、圧縮習慣労働の6つのプランが提示されている。たとえば、家族友好的手当とは、労働者の生活の質を改善する助けとなるもので、仕事のスケジュールの融通を利かせたり、家族のための休暇を取ったりすることができる<sup>16)</sup>。

最後に、生徒の現在の生活に焦点を当て、自分も家族の一員として家族のために何かすることが必要であり、家族が協力することによって家族での雑務をより簡単に行うことができることを学習する。生徒という立場で、家庭生活と仕事に関わっていくことの重要性を学習することになる。

次のUnit. 9 第39章「雇用者が求めるスキル」<sup>17)</sup>では、雇用者が労働者に求めるスキルやそのスキルの有無が仕事に与える影響といった、仕事場で生活するための技術について示されている。労働者に必要とされる能力とスキルを図式化したものが図5である<sup>18)</sup>。

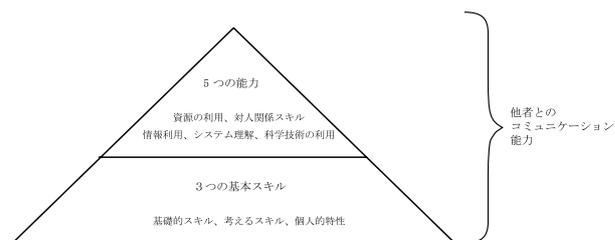


図5 労働者に必要とされる能力とスキルの概念図

労働者に必要とされる基本スキルは3つあり、それに加えて有能な労働者に必要な5つの能力がある。この3つの基本スキルや5つの能力には、共通して他者とのコミュニケーションスキルが重要視されている。これはキャリアの成功のためだけでなく、人間として生きていくうえでも必要なスキルや能力であるとされている。

3つの基本スキルとは、基礎的スキル、考えるスキル、個人的特性である。これを示したものが表5である<sup>19)</sup>。基礎的スキルとは、読み、書き、計算、話すこと、聞くことなどである。考えるスキルとは、独創的思考や問題解決など、自分で考え、表現し論じるスキルである。個人的特性とは、個人の責任、自尊心、社会性など、自己管理や誠実さといった個人の資質である。

表5 3つの基本スキル

基礎的スキル	読み、書き、計算や数学的处理、話すこと、聞くこと
考えるスキル	独創的思考、結論付け、問題解決、心の目で物事を見ること、学び方を知ること、表現し論じること
個人的特性	個人の責任、自尊心、社会性、自己管理、誠実さ

5つの能力とは、資源の利用、対人関係スキル、情報利用、システム理解、科学技術の利用である。これを示したものが表6である<sup>20)</sup>。資源の利用とは、時間、お金、空間、スタッフの有効利用など、物的、人的資源を有効に活用することである。対人関係スキルとは、組織で働くこと、統率することなど、人間関係に関するスキルである。情報の利用とは、データ処理、情報の読み取りや伝達といったコンピュータなどの情報処理である。システム理解とは、社会、組織、科学技術システムを理解することである。科学技術の利用とは、科学技術設備や道具などの利用である。

表6 5つの能力

資源の利用	時間、お金、物質、空間、スタッフの有効利用。
対人関係スキル	組織で働くこと、他人に教えること、顧客に仕えること、統率すること、交渉すること、異文化の人々と働くこと。
情報利用	データの習得と評価、ファイル作りと維持すること。情報を読み取り、伝達すること。情報を加工するためにコンピュータを利用すること。
システム理解	社会、組織、科学技術システムの理解すること。技術をモニター監視し、改正すること。システムをデザインしたり改善したりすること。
科学技術の利用	設備や器具の選択、特定の仕事に必要な科学技術を応用すること。科学技術の保持や故障を見つけて修理すること。

これらの能力は、自己の資源を用い、他人と協働し、必要な情報を見いだして利用し、複雑な相互関係を理解し、様々な科学技術を利用して働くために必要なものである。また、それは、人間として生きていくうえでも必要なスキルや能力である。

最後に、Unit. 9 第40章「職業調べ」<sup>21)</sup>では、自分の望むキャリアに適した職業の選び方について学習する。まず、自分自身を理解することから始まる。自分はどのようなスキル、興味があるかを知ることがその第1歩である。自己に適していて、自己のキャリアに合った仕事を見つけ、自己の技術や興味、才能に合った仕事を見つけることが重要と生徒が認識する必要が論じられている。

次に具体的に職業について生徒が自分で調べる。その調べ方をまとめたものが表7である<sup>22)</sup>。図書館を訪ねる、資料を印刷する、政府出版物を印刷する、コンピュータデータベースで検索する、視聴覚教材を利用する、人々と仕事について話すなどの6つの方法が紹介されている。どの方法も具体的に記述され、すぐに生徒が取り組めるよう工夫されている。

教科書の最後に、付録AとBが設けられている。付録Aの一部を抜粋したものが表8である<sup>23)</sup>。

付録Aでは、家庭科に関する幅広い職業とその特徴が取り上げられている。職業例としては、ウェ이터やウェイトレス、教師、ファッションデザイナーなどが挙げられている。生徒が各職業の具体的な内

容を十分に知ることができるように、その各々の職業での義務や、平均月収、その職業に必要な教育や訓練、専門的資格、その仕事で考慮すべきこと、などについて詳しく記されている。たとえば、ウェイトレスの場合、義務とは、お客さんの注文をとること、食べ物や飲み物を供給すること、支払いを受け取ることとされ、必要とされる教育、訓練、専門的資格とは、16歳以上で健康であることとされている。その他考慮することとして、立ち仕事で重いトレイを運ぶこと、きちんとして外見で明るい性格であること、などが挙げられている。

付録Bでは、SCANS (アメリカ労働省) による労働者に必要なスキルについて、労働者に必要とされる3つの基本技術と5つの能力に合わせてまとめられている。その職業として、子どもの世話の助手、歯科衛生士、服飾マネージャー、シェフの4種類を

表7 職業を調べる方法

①	図書館を訪ねる。 ・学校の図書館や公共の図書館を訪ねる。
②	資料を印刷する ・図書館にあるキャリアに関する本やパンフレット、雑誌を探す。 ・カードカタログやオンラインコンピュータで情報を探す。 ・特定の職業やその職業でよく知られた人のインタビューが載っている雑誌を読む。
③	政府出版物を印刷する。 ・職業見解ハンドブック (OOH) をみる。 ・250の職業について詳細に示してある。 ・他の200の職業も簡単に示してある。 ・アメリカ労働省が2年ごとに新しいものを出版している。 ・仕事の性質、条件、数、その場所、必要とされる技術や知識について知ることができる。また昇進のチャンス、将来の見通し、可能な収入についても記されている。 ・仕事の種類によって20の群に職業を分類している。 ・職業調査のためのガイド (GOE) をみる。 ・興味あるエリアごとに職業を分類している。 ・職業タイトル辞典をみる。 ・その仕事の内容を理解できる。 ・20,000以上の職業が記されている。 ・仕事の種類によって20の群に職業を分類している。 ・よく改訂されている。
④	コンピュータのデータベースで検索する。 ・学校や公共の図書館のコンピュータガイダンスプログラムで、自己の興味や才能を見つけるためにデータベースを利用する。
⑤	視聴覚教材を利用する。 ・図書館にあるビデオテープやオーディオテープを利用する。
⑥	人々と仕事について話す。 ・家族と話す。 ・自分が望む仕事をしている人を観察する。

表8 付録A抜粋

仕事のタイトル / 可能な所得	義務	教育、訓練 専門的資格	その他 考慮すべきこと
ウェ이터 / ウェイトレス \$10,000 - \$24,000	お客さんの注文をとる、食べ物や飲み物を供する。勘定を項目別にする。支払いを受けとる。お客さんを扱う。お客さんをテーブルに案内する。カウンターに座ったお客さんの対応をする。テーブルを設置し、きれいにする。会計係。	16歳以上で、経験を積んだ人を観察する。一緒に働くことによる仕事での訓練。伝染病がないことを示す健康証明。	立って動き、重いトレイを運ぶ。きちんとした外見、明るい性格、あらゆる種類の人々との触れ合いが必要。良い記憶力と計算力が必要。夕方、週末、祝日に働く。

表9 付録B抜粋

	子どもの世話の助手	歯科衛生士	服飾マネージャー	シェフ
資源	安全のために、子どもの遊びのエリアや他の施設をモニター監視する。子どもたちの活動計画の時間、スケジュールを守る。	来院患者のスケジュールを管理し、時間にあったサービスを行う。必要な時に歯の治療をする。	技術ある従業員と、技術のない従業員の両方を監督する。スタッフのスケジュールを計画する。買い付け品の価格と諸経費を監視する。必要に応じた設備の修繕をする。	毎週の売り上げを計画し準備する。食品の在庫を管理する。売り上げ費用と在庫食品を計算する。売り上げを決める。
対人関係スキル	クラスのチームのメンバーとして働く。	患者に友好的かつ良いマナーでサービスを提供する。狭いオフィスで他の従業員と一緒に働く。	不満なお客さんや不満を持った従業員を扱う。必要に応じて、スタッフを雇い、解雇する。迅速かつ簡潔に決断する。	チームのリーダーとして、時間的に合ったやり方で栄養ある食品の準備をする。同僚を励まし、訓練する。

例に挙げて説明されている。シェフを例に、その一部を抜粋し、まとめたものが表9である<sup>24)</sup>。

表9では、基礎的スキル、考えるスキル、個人的特性の3つの基本スキルと、資源の利用、対人関係スキル、情報利用、システム理解、科学技術の利用の5つの能力に分けて整理されている。たとえば、基礎的スキルには、レシピを見て、必要な材料にかかるお金を計算する。メニューを作成すること、考えるスキルには、メニューを決め、食品の準備をする。他の従業員との間の問題を解決する。新しく独創的な料理を作ることが挙げられている。そこから、前述した3つの基本スキル、5つの能力を伸ばすにはどのようにしたらよいか具体的に記述されており、自分に必要な能力とスキルを計画的に身につけられるようになっている。

### 3. 教科書分析のまとめ

以上の分析結果をまとめると、アメリカにおける家庭科教育では、身近な例を取り上げ、具体的な実践も交えることで、生涯学習の視点から職業生活および家庭・地域生活の中で必要とされる知識やスキルなどを身に付けさせるように工夫されている。そして、自己の興味や価値観を知り、幅広い分野の職業を自分で調べて知ること、自己実現のキャリアを形成していくための意欲を喚起し、必要な態度や能力を育てようという考え方を読み取ることができる。

アメリカの家庭科教育においてキャリア教育を扱う際の特徴として、以下の5点を指摘することができる。

- ①幅広い分野の職業や仕事、生徒にとってわかりやすいように具体的に扱っていること。
- ②キャリアで成功するために必要とされるスキルや能力、才能が明確にされ、詳細かつ具体的に言及していること。

- ③単に仕事を重視するだけではなく、仕事と家庭生活とのバランスについて言及していること。
- ④職業を調べるにあたっての具体的な方法を取り扱っていること。
- ⑤職業や仕事の理解、選択などにおいては、自己の理解が重要であるとの視点から、具体的に自己分析の項目を設定していること。

### おわりに

本小論では、スーパーの先行研究を参考にしながら定義したキャリア教育の視点からアメリカの家庭科教育を取り上げ、具体的に、教授・学習活動の指針のひとつとして家庭科ナショナルスタンダードと学校における具体的な教材・教具のである家庭科教科書を取り上げ、その理念や学習内容などの特色について分析してきた。

分析の結果をまとめると、アメリカの家庭科教育におけるキャリア教育は、以下のようにまとめることができるであろう。

まず、学校終了後、すなわち生涯学習社会における労働の意義と職業や仕事に必要な資質（知識・理解、スキル、態度・能力など）が目標レベルで明示されている。次に、就労の準備として、自己を知ることの重要性が認識されている。そして、単に職業や仕事を扱うだけでなく、それらと家族や家庭生活と結びつけられている。とりわけ、教科書においては、これらを抽象的に論じるのではなく、多種多様な職業や仕事について具体的な実例を多く挙げ、より生徒が理解し易い工夫がなされている。

翻って、わが国の教育現場では、授業時間数削減の中で、キャリア教育という新たな学習内容の安直な導入は必ずしも容易ではないであろう。しかしながら、家庭科にはキャリア教育に関連する内容が本質的に含まれており、文部科学省の報告書などにおいては小学校から高等学校までの教育実践の可能性

も示されていることもまた事実である。

今後は、わが国の家庭科にキャリア教育の教育理念をどのように考え、位置づけていくかについて考えるには、本論文で検討した先進的な取り組みがなされているアメリカの事例を参考にしながら、家庭科教育の独自性と存在価値と意義を再検討し、家庭科としてキャリア教育に対して何が貢献できるのか、といった視座から家庭科教育の目的・目標や学習内容を再構築する必要があるだろう。

18) *Ibid.*, pp. 521-534. より筆者作成.

19) *Ibid.*, pp. 523-528より筆者作成.

20) *Ibid.*, pp. 528-534より筆者作成.

21) *Ibid.*, pp. 536-553.

22) *Ibid.*, pp. 539-545. より筆者作成.

23) *Ibid.*, pp. 577-584. より筆者作成.

24) *Ibid.*, pp. 585-594.

(2006年 5月22日受付)

(2006年 6月28日受理)

## 引用・参考文献

- 1) Super, D. E., "A Life-Span, Life-Space Approach to Career Development", *Journal of Vocational Behavior*, Vol. 16, (1980)pp. 282-298. より筆者作成.
- 2) National Association of State Administrators for Family and Consumer Sciences, *National Standard for Family and Consumer Science Education*, Vocational-Technical Education Consortium of States, Southern Association of Colleges and Schools, 1998.  
[http://www.agls.uidaho.edu/fcs461/FACS%20Standards.pdf#search='national%20consumer%20education%standards'](http://www.agls.uidaho.edu/fcs461/FACS%20Standards.pdf#search=national%20consumer%20education%standards).
- 3) *Ibid.*, pp. 37-245. より筆者作成.
- 4) Glosson, L. R., Meek, J. P. and Smock, L. G. eds., *CREATIVE LIVING*(2000), Mc Graw Hill, pp.1-768より筆者作成.
- 5) *Ibid.*, pp. 76-85.
- 6) *Ibid.*, p. 77-78より筆者作成.
- 7) *Ibid.*, pp. 77-79.
- 8) *Ibid.*, pp. 132-141.
- 9) *Ibid.*, p. 133.
- 10) *Ibid.*, pp. 136-139. より筆者作成.
- 11) *Ibid.*, pp. 209-212, 265-268, 351-354, 533-536, 660-663, 724-728. より筆者作成.
- 12) *Ibid.*, pp. 209-212, 265-268, 351-354, 533-536, 660-663, 724-728. より筆者作成.
- 13) Couch, S., Felstehausen, G. and Hallman, P. eds., *SKILLS FOR LIFE*(2000), Mc Graw Hill, pp. 508-553より筆者作成.
- 14) *Ibid.*, pp. 508-519.
- 15) *Ibid.*, pp. 509-510.
- 16) *Ibid.*, pp. 515-517.
- 17) *Ibid.*, pp. 520-535.